

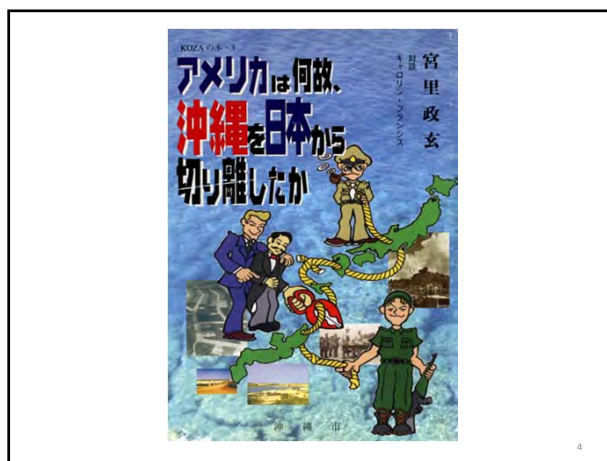
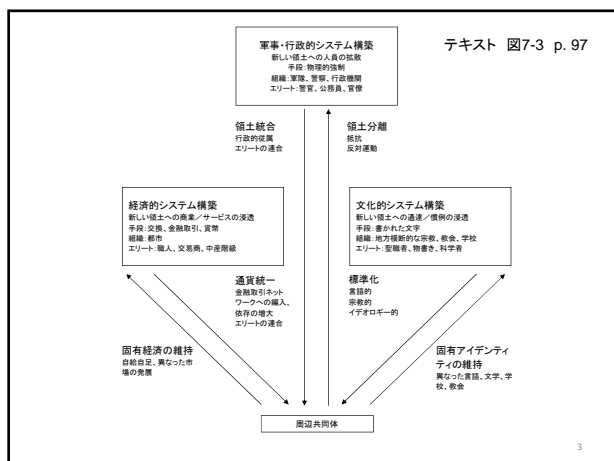
政党の編成と投票行動

政治・空間・場所 第12回
第4部 理論に根差した事例研究へ

政党の編成と対立

- ステイン・ロッキンによる **中心一周辺モデル**と **クリーヴィッジ(亀裂、対立)** 概念
- 戦後沖縄の軍政下における政党政治の再編成過程、復帰前の保革クリーヴィッジの構成

2



沖縄と日本・米国

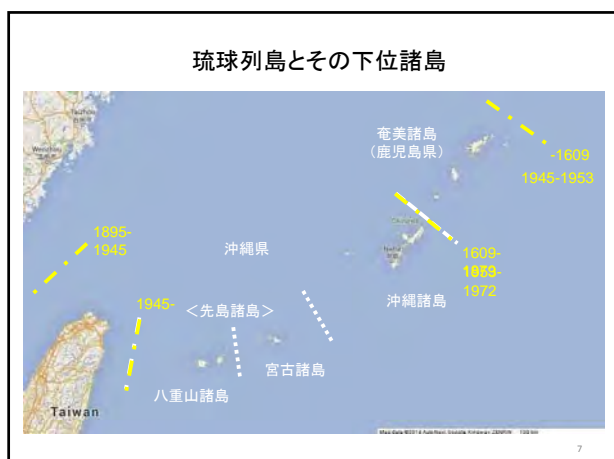
- 1429年琉球王国統一
- 1879年「琉球処分」＝沖縄県として編入
 - － 領土**統合**、政治経済的**周辺化**＝近代化の遅れ
- 1945年沖縄戦＝米軍占領下
 - － 領土**分離**、**異民族支配**開始
- 1951年対日講和条約で米軍施政権保持
 - － アメリカ支配地域に**周辺化**(市民権、産業なし)
- 1972年日本復帰、基地存続のまま沖縄県に
 - － 領土**再統合**、**再周辺化**

5

米軍の占領・統治

- **四群島に分割統治**、それぞれに自治政府
 - － 政党形成を「一定程度」認める
 - － 一部に**共産主義者**の動き
 - － 1950年に群島政府知事・議会議員選挙
 - **日本復帰論者が多数当選**
- 米軍(民政府)は群島政府廃止、新中央政府を設立させる
 - － 政党が**全琉球を視野に入れたものに再編**

6



米軍占領直後の政党形成

奄美諸島
奄美大島社会民主党(1950年8月結成)

沖繩諸島
沖繩社会党(1947年9月→同年社会党結成→1950年共和党へ)
琉球社会党(1947年10月→同年社会党結成→1950年共和党へ)
沖繩民主同盟(1947年6月→1950年共和党へ)
沖繩人民党(1947年7月)

宮古諸島
宮古民主党(1946年5月→1951年宮古革新党結成)
宮古社会党(1947年10月→1951年宮古革新党結成)
宮古自由党(1949年9月→1950年沖繩社会大衆党へ)

八重山諸島
八重山民主党(1948年1月)
八重山人民党(1948年2月→1950年八重山自由党へ改称→同年沖繩社会大衆党へ)
八重山労働党(1946年1月→のち消滅)

1951年末の政党形成

- 共和党(1950年10月結成)
- 米国による信託統治下、「琉球」の独立主張、衰退
- 沖繩社会大衆党(1950年10月)
- 日本復帰支持、中道の革新
- 琉球人民党(1951年12月沖繩人民党より一時的に改称)
- 日本復帰支持、革新(のちの共産党)←米軍の弾圧

1952年「琉球政府」設立

• 最初の立法院議員選挙結果(3月)

	議席	占有率%
沖繩社会大衆党	14	45.2
琉球人民党	1	3.2
その他	1	3.2
無所属	15	48.4
合計	31	100.0

• 復帰を唱えない親米政党なし

親米保守政党の形成

- 沖繩社会大衆(社大)党分裂
- 国家社会主義を標榜する綱領
- 琉球政府の行政主席に任命された比嘉を中心の新党結成
- 琉球民主党結成
- 親米保守政党=今日に至るまでの沖繩政治の重要なエージェント
- 革新(中道・左派)系の社大・人民党と対立(クリーヴィッジ)

琉球政府立法院議員選挙にみる 保革クリーヴィッジ(表12-2)

年	革新政党		保守政党**		中立***	革新		保守	
	人民	民連*	社会	社大		琉球民主ほか	革新	保守	
1954	5.67			36.02		31.66	41.69	31.66	
1956	4.70			23.05		38.93	27.75	38.93	
1958		21.51		18.15	10.25	21.56	39.65	21.56	
1960	10.01		2.20	25.96		40.07	35.97	40.07	
1962	10.25		2.00	23.50		34.91	35.74	34.91	
1965	10.09		2.98	21.75		36.62	34.82	36.62	
1968	9.35		4.58	19.58		36.86	33.51	36.86	
平均							35.59	34.37	

注: *「民連」は革新系議員の共同組織であり、社大党の一部と沖繩人民党から構成された。
**「保守政党」は琉球民主党、沖繩自由民主党、および沖繩民主党のいずれかを示す。
***「中立」はもと保守系議員を含む。
資料: 沖繩戦後選挙史編集委員会編『沖繩戦後選挙史』第二巻(沖繩県町村会、1984年)

クリーヴィッジ構造の形成

- 最大の要因は米軍の駐留・統治
 - 米軍基地は異民族支配として抑圧の源泉であるとともに、経済的波及効果をもたらす(両義性)→保革拮抗する選挙結果(スイング)
 - 革新政党への支持、反米・反基地大衆運動=抵抗の意思表示
 - 保守政党への支持、大衆運動への不参加=米軍基地受容の意思表示

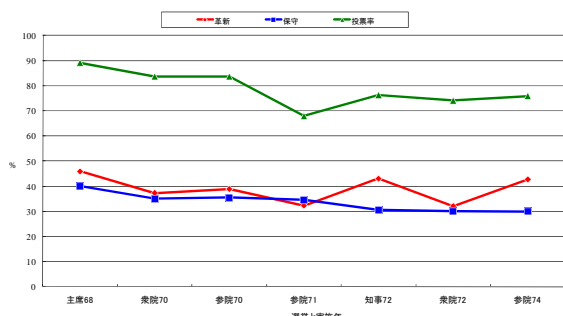
13

クリービッジ構造の地域性

- 保革クリーヴィッジの現れ方に明らかな地域的パターン
- 地域による米軍駐留の評価は異なり、一定の継続性を示す=場所の政治
- 復帰後も継続される
 - 基地のメリット=軍用地料、雇用、国庫補助金
 - 基地のデメリット=騒音、地域発展阻害
 - 計量分析結果にも反映(山崎2006)

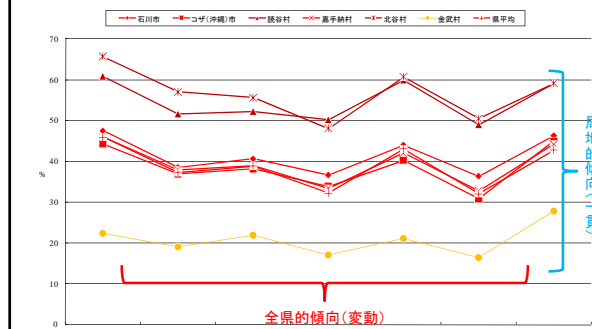
14

沖縄県各種選挙における絶対得票率(1968-1974)



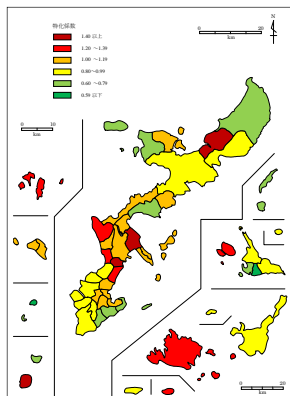
15

沖縄県基地所在市町村における革新絶対得票率(1968-1974)



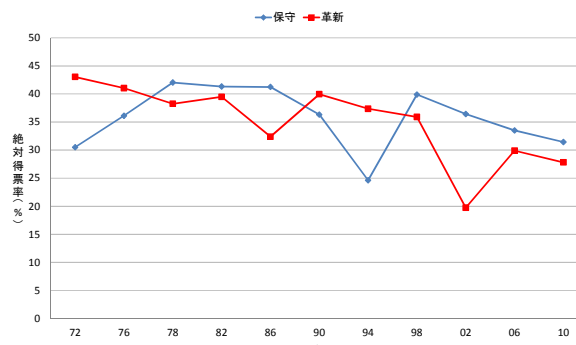
16

1995年の参议院選挙における革新票の特化係数

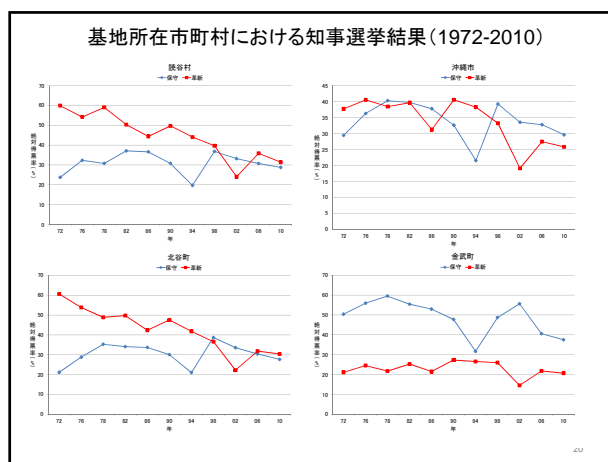
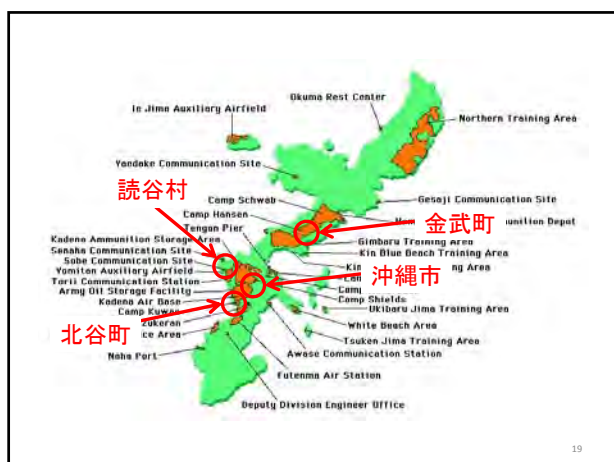


17

沖縄県知事選の絶対得票率(1972-2010)



18

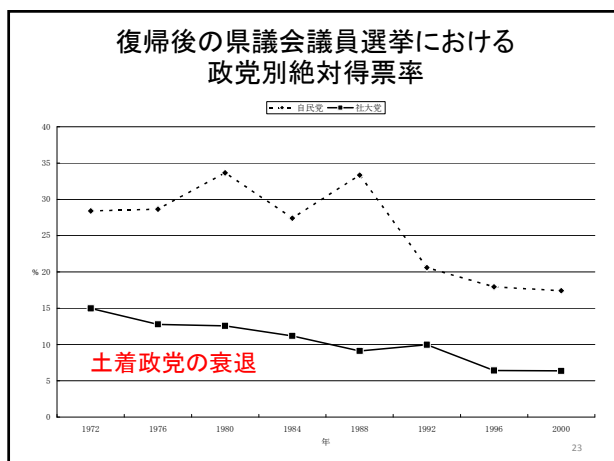


沖縄政党の系列化(1)

- 復帰前後より本土中央政党への系列化
 - 沖縄社会党 → 日本社会党沖縄県本部 (1962年2月)
 - 公明会 → 公明党沖縄県本部 (1970年2月)
 - 沖縄自由民主党 → 自由民主党沖縄県支部連合会 (1970年3月)
 - 沖縄人民党 → 日本共産党沖縄県委員会 (1973年10月)
- 社大党は系列下に入らず

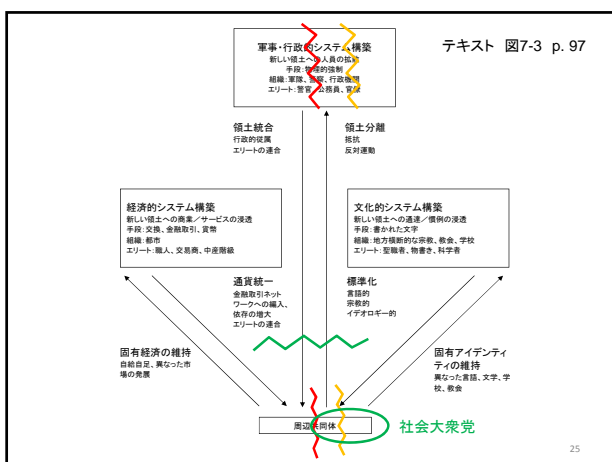
沖縄政党の系列化(2)

- 中心国家への再統合過程
- 地方政党の衰退
 - 沖縄社会大衆党は**土着政党**の道 = 系列化した革新政党の**バッファー**(接着剤)として機能するも、衰退化
- 沖縄社会を横断する政党の不在
 - 中央政党への系列化によって**沖縄社会内での利害・イデオロギーが分裂したまま** = 米軍駐留への抵抗の表出・域内連帯が弱まる

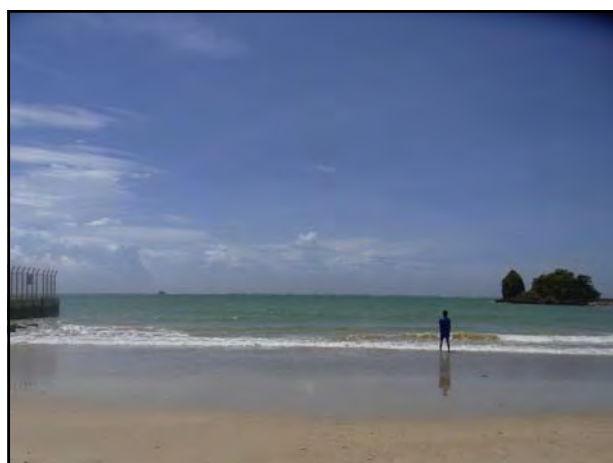


政党政治の変容(本土化)

- 沖縄が本土から分離・軍事化される過程で米軍基地の評価をめぐって保革のクリーヴィッジが形成
- 復帰に伴う政党系列化によって、このクリーヴィッジが本土中央政党のそれと重なる
- 結果的に沖縄をとりまとめる**土着政党が弱体化 = 「場所の政治」の希薄化へ**
- 革新票の一貫した減少 = 沖縄の保守化(投票率の低下)



- ## 「オール沖縄」の登場
- 90年代以降の革新の衰退
 - 政治的保守化(本土化)
 - 95年少女暴行事件
 - 普天間基地返還、辺野古移設問題
 - 98年から16年間保守県政
 - 辺野古移設問題の複雑化(県外移設問題)
 - 2010年から名護市長は反対派
 - 2013年普天間オスプレイ配備で県外移設を求める**保守を超えた「建白書」**
 - 2014年**「オール沖縄」**候補に保守系現職知事敗れる





沖縄県知事選立候補予定者の辺野古移設への対応

「民意は埋め立て承認の撤回、世論を裏切つてはいけません」

「沖縄の心を一つにして必ず辺野古移設を断念させる」

「承認が撤回かを県民投票で決め、決まった方針のもとに進める」

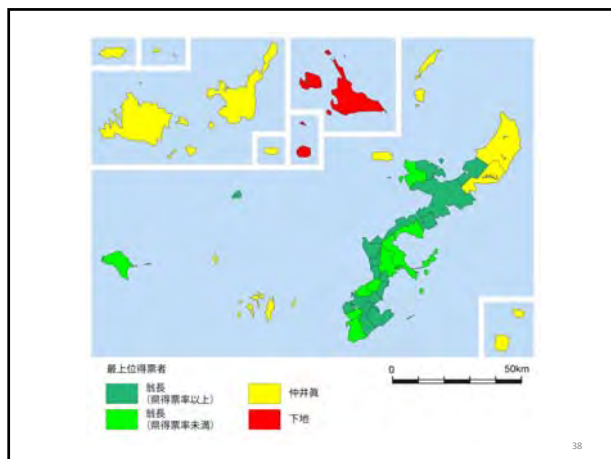
「辺野古移設は現実的。反対で元に戻しても混乱する」

■那覇市議会の保守系会派
■共産、生活、社民、地域政党
■沖縄社会大衆

■地域政党そうぞう、
■維新県政支部

■自民

<http://senkyo.mainichi.jp/news/20141028ddm003010076000c.html>

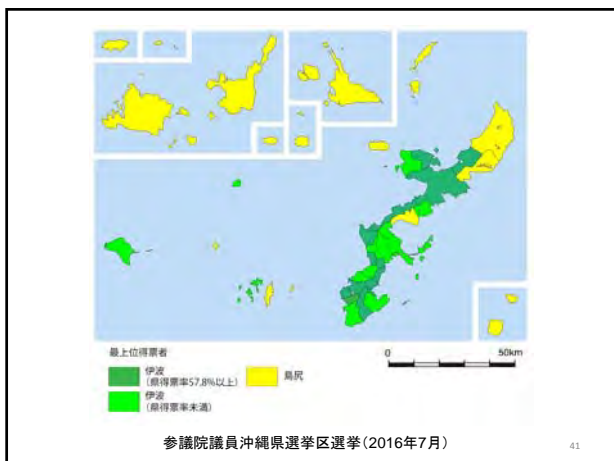


地域名	仲井真得票数 A (2010年-14年)	伊波得票数 B (2010年)	翁長得票推計値 A+B	翁長得票数 (2014年)	推計値の誤差 (%)
北部地域	7,197	26,689	33,886	35,144	-3.58
中部地域	18,390	108,208	126,598	123,643	2.39
那覇地域	22,878	68,108	90,986	90,284	0.78
南部地域	18,705	75,852	94,557	94,374	0.19
宮古地域	5,296	8,742	14,038	7,021	99.94
八重山地域	2,166	9,483	11,649	10,354	12.51
県全体	74,632	297,082	371,714	360,820	3.02

地域別重点施策の優先度(2012年)

地域名	米軍基地問題の 解決促進	離島・過疎地域等の 振興
沖縄島北部地域	10.7	5.1
同 中部地域	12.7	1.2
同 那覇地域	11.2	1.4
同 南部地域	13.9	2.8
宮古地域	4.9	7.0
八重山地域	5.8	15.8
県全体	11.9	2.8

注: 数値は選択された上位3位までの施策を加重平均したもの。数値が大きいほど各地域の回答者の優先度が高い(沖縄県企画部2012: 21頁)。
資料: 沖縄県企画部(2012)



発言の時間

- ① (大阪維新の会や沖縄社会大衆党以外で) 都道府県や自治体(政令指定都市)の議会で「地域(地方)政党」を標榜している政党や会派を見つけて、その名称、設立経緯、議会での勢力について調べて下さい。
- ② 政策綱領から、どのような地域的利害(地方分権や地域の自立性)を主張しているか、国政政党の地方組織・支部とどのような差異があるかなど調べて下さい。
- ③ 直近での選挙結果を踏まえて、地域政党が中央政治と異なった政治課題を掲げることの意味を考えてみて下さい。

講義期末アンケート

- スマホで大学のHPから、全学ポータルに入り、認証を通して、アンケートバナーをクリックしてください。
- 8つの設問に答えて、自由記述欄にも記入をお願いします。
- 自宅やPCからでも入力できます。

43